

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証結果報告書（令和元年度）



令和2年12月

日野町総合計画懇話会総合戦略検証分科会

目 次

1. はじめに.....	1
2. 検証方法.....	2
3. 基本目標別検証結果.....	6
4. 施策検証結果一覧.....	16
基本目標（1）まちのたからで雇用を創る.....	17
基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る.....	20
基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	23
基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる... <td>27</td>	27
5. 施策別検証内容（施策検証シート）	31
基本目標（1）まちのたからで雇用を創る.....	32
基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る.....	42
基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	53
基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる... <td>68</td>	68
6. 地方創生交付金事業の検証.....	82
7. 検証のまとめ.....	84
1) 量的(KP)検証のまとめ.....	85
2) 質的(取組内容) 検証のまとめ.....	86
3) 基本目標別のまとめ.....	87
4) 昨年度の検証と比較して.....	91
5) まとめ.....	93
8. 資料編.....	96
1) 用語解説	97
2) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会の開催.....	99
3) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会委員名簿.....	99

1. はじめに

1) 総合戦略の検証の実施について

まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定される市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として、平成27年10月に策定された「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」（以下「総合戦略」）では、日野町の人口が2060年には約15,900人に減少すると推計（国立社会保障・人口問題研究所推計）されているなか、「日野町人口ビジョン」で見通している将来展望人口、18,000人台の維持と人口構造の安定をめざすため、平成27年度からの6年間の基本的な方向と施策の取り組みを定めています。この総合戦略を進めることにより、安心して暮らせるまちをつくりそのまちの魅力で交流人口および定住者人口を増やし、持続的に発展する日野町をつくることを目指しています。

のことから毎年度の事業完了後に基本目標と施策についての取り組み状況を外部有識者等の参画のもとに効果検証することにより、その検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行うPDCAサイクルを確立し、総合戦略を着実に推進するために実施するものです。

2) 検証にあたっての着目点など

総合戦略の検証を進めるにあたって、次の着目点により検証を実施しました。

- ①総合戦略に掲げる「めざす姿」の実現に向けて、4つの基本目標の総合的な自己点検が実施され、事業の見直しも含めた今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。

（めざす姿）

人と人がつながり、顔の見える関係のもと、いきいきと輝きながら活発に、地域をよくするために自分たちで考え、自分たちで行動して安心して暮らせる地域をつくり、そのもとで地域のコミュニティや文化、産業をつくれるまちとなっている。また、地域内経済循環の活性化につながる、人をはじめ自然、歴史など地域の誇りと地域資源を活かすことにより、「ひと」「まち」「しごと」のつながりの好循環により持続発展可能なまちとなっている。

- ②施策の取り組みについて、基本目標および基本的方向性を踏まえた取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ③施策の取り組みについて、施策の内容を十分に理解したうえで取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ④施策の取り組みについて、重要業績評価指標（KPI）の実績だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実ができているか。

2. 検証方法

1) 施策の検証方法

施策の検証については、施策毎に取り組み状況等をまとめた「施策検証シート」を作成し、懇話会委員の合議性により検証を実施した。

「施策検証シート」の検証項目には、施策毎の目標値にあたる「重要業績評価指標（KPI）の達成度」だけでなく、施策の取り組み内容の質について検証を行うため、「施策の取り組み状況」、

「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」を加えた5項目とした。

2) 施策の検証結果

検証結果については、30点満点とし、「施策の検証基準」に基づき、量的検証項目として重要業績評価指標（KPI）の達成度、質的検証項目として4項目の採点を行い、5項目の合計点数により5段階の検証結果とした。

【量的検証項目】・・・点数配分10点

量的な検証として、年度別的重要業績評価指標（KPI）の目標値に対する実績値の達成度を検証した。なお、重要業績評価指標（KPI）が複数設定されている施策については、平均点を点数とした。

検証による点数配分は、次のとおりである。

点数	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
KPIの達成度	100% 100% 未満 ～ 90% 以上	100% 90% 未満 ～ 80% 以上	90% 未満 ～ 80% 以上	80% 未満 ～ 70% 以上	70% 未満 ～ 60% 以上	60% 未満 ～ 50% 以上	50% 未満 ～ 40% 以上	40% 未満 ～ 30% 以上	30% 未満 ～ 20% 以上	20% 未満 ～ 10% 以上	10% 未満 ～0% 以上

年度別的重要業績評価指標（KPI）に関する検証結果を次のとおり5段階とした。

KPIの検証結果	重要業績評価指標（KPI）の達成度		重要業績評価指標（KPI）の検証点数
	量S	量A	
量S	100%～90%以上		10点～9点
量A		90%未満～70%以上	8点～7点
量B		70%未満～50%以上	6点～5点
量C		50%未満～30%以上	4点～3点
量D		30%未満～0%以上	2点～0点

【質的検証項目】・・・点数配分20点

「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」の4項目について検証を行った。

検証による点数配分は、次のとおりである。

検証項目	5点	4点	3点	2点	1点
【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証ができるか	施策の内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	施策の内容を理解し、課題解決と達成に向け取り組みが達成している	施策の内容を理解し取り組みができる	概ね施策の内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	施策の内容を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	施策の内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	施策の内容を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね施策の内容を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない
【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができるか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、取り組みにより達成している	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができる	基本目標と基本的方向を理解し取り組みができる	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	基本目標と基本的方向を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない

質的検証を行った4項目の合計点数により、質的な検証結果を次のとおり5段階とした。

質的検証結果	質的検証結果の内容	質的検証を行った4項目の合計点数
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	20点～17点
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができる	16点～13点
質B	内容を理解し、取り組みができる	12点～9点
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	8点～5点
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	4点～1点

【検証結果】

量的検証項目（KPI）および質的検証項目（4項目）の検証点数の合計点数により次のとおり、施策の検証結果とすることとした。

検証結果		検証結果内容	5項目の合計点数
S	目標を達成している	30点～25点	
A	優れている	24点～19点	
B	実施できている	18点～13点	
C	工夫が必要	12点～7点	
D	改善が必要	6点～1点	

【施行策の検証基準】

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略		施策の検証基準																					
30点満点		達成		優		良		発展途上		改善が必要													
数量的検証 ①	KPIの達成度 ※KPIが複数の場合は、平均点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点											
		100%	100%未満～90%以上	90%未満～80%以上	80%未満～70%以上	70%未満～60%以上	60%未満～50%以上	50%未満～40%以上	40%未満～30%以上	30%未満～20%以上	20%未満～10%以上	10%未満～0%以上											
質的検証	検証観点		5点		4点		3点		2点		1点												
	【取り組み状況】 ② 施策の内容を踏まえた取り組みと検証ができるとしているか		施策の内容を十分に理解し、取り組みにより達成している		施策の内容を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている		施策の内容を理解し取り組みができる		概ね施策の内容を踏まえているが、取り組みが不十分		あまり施策の内容を踏まえて取り組めていない												
	【今後の取り組み】 ③ 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか		施策の内容を十分に理解し、達成した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている		施策の内容を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている		概ね施策の内容を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが示されない		あまり施策の内容を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない														
	【取り組み状況】 ④ 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができるとしているか		基本目標と基本的方向を十分に理解し、取り組みにより達成している		基本目標と基本的方向を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができる		基本目標と基本的方向を理解し取り組みができる		概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、取り組みが不十分		あまり基本目標と基本的方向を踏まえて取り組めていない												
	【今後の取り組み】 ⑤ 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか		基本目標と基本的方向を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている		基本目標と基本的方向を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている		基本目標と基本的方向を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている		概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分		あまり基本目標と基本的方向を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない												
合計検証点数																							
合計検証点数		30点～25点	24点～19点	18点～13点	12点～7点	8点～1点																	
⑥検証結果		S	A	B	C	D																	
		目標を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要																	

3) 基本目標別の検証

基本目標の検証については、めざす姿の実現に向けて、基本目標別にまとめられた取り組み状況と今後の取り組み、基本目標を構成する施策の検証結果を踏まえ、総合的に基本目標を検証し、その検証内容をコメントとしてまとめた。

4) 地方創生交付金事業の検証

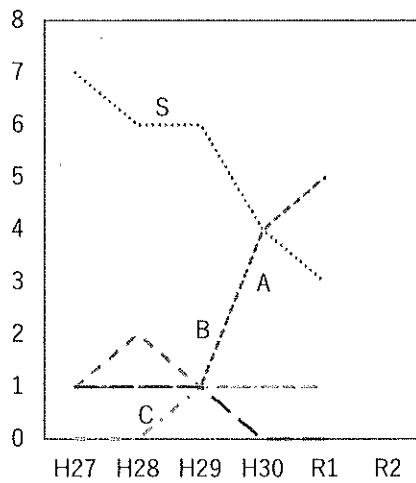
地方創生交付金事業の検証については、国から外部有識者による効果検証が求められていることから、総合計画懇話会で検証を行うこととした。効果検証については、重要業績評価指標（KPI）の達成度に加え、関連する施策の検証結果を踏まえ、事業として有効であったかを検証することとした。

3. 基本目標別検証結果

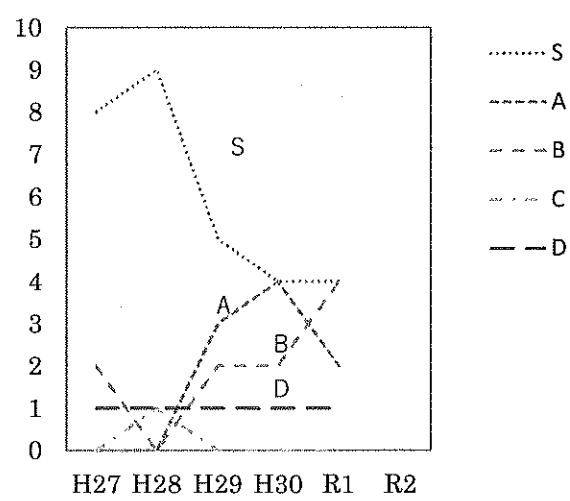
No.	基本目標	年度	検証結果					合計	
			達成度 100%～90%以上	達成度 90%未満～70%以上	達成度 70%未満～50%以上	達成度 50%未満～30%以上	達成度 30%未満～0%以上		
			量S	量A	量B	量C	量D	合計	
1	まちのたからで雇用を創る	H27	7	1	1	0	1	10	
		H28	6	1	2	0	1	10	
		H29	6	1	1	1	1	10	
		H30	4	4	1	1	0	10	
		R1	3	5	1	1	0	10	
		R2							
2	出会いと発見で人の流れを作る	H27	8	0	2	0	1	11	
		H28	9	0	0	1	1	11	
		H29	5	3	2	0	1	11	
		H30	4	4	2	0	1	11	
		R1	4	2	4	0	1	11	
		R2							
3	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	H27	11	1	0	0	3	15	
		H28	11	1	1	1	1	15	
		H29	11	1	0	1	2	15	
		H30	12	2	0	1	0	15	
		R1	11	2	0	0	2	15	
		R2							
4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	H27	11	0	0	0	3	14	
		H28	12	0	0	0	2	14	
		H29	10	3	0	1	0	14	
		H30	10	3	0	0	1	14	
		R1	8	5	0	0	1	14	
		R2							
総合計		H27	37	2	3	0	8	50	
		H28	38	2	3	2	5	50	
		H29	32	8	3	3	4	50	
		H30	30	13	3	2	2	50	
		R1	26	14	5	1	4	50	
		R2							

基本目標別量的（KPI）検証結果

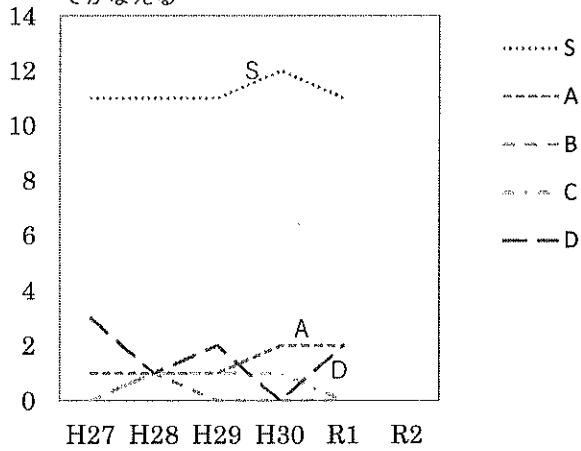
1. まちのたからで雇用を創る



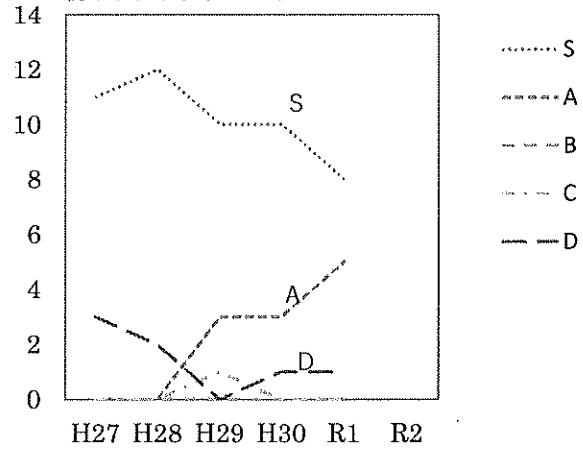
2. 出会いと発見で人の流れを作る



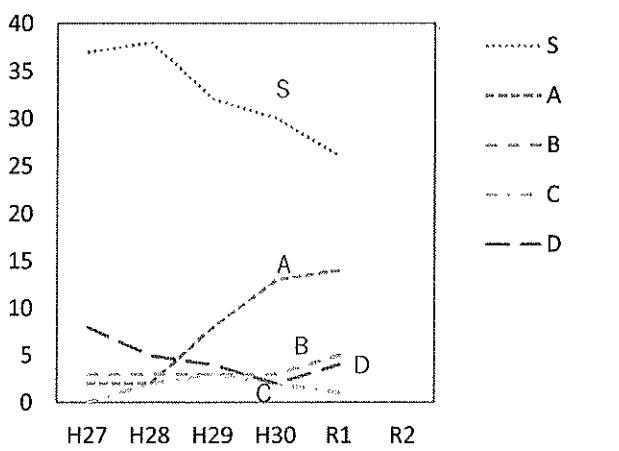
3. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる



4. くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる



全施策



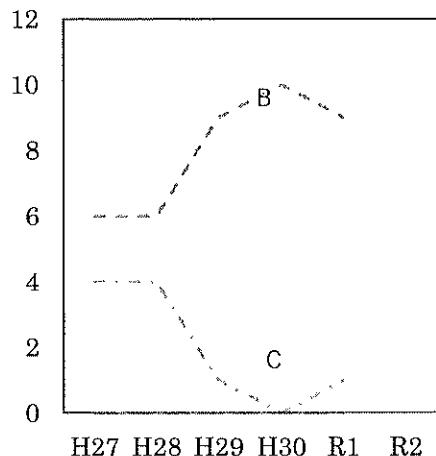
全施策の量的（KPI）検証結果では、量S（達成度100%～90%）は昨年度より4施策減って26施策となりましたが、依然最も多くなっています。量A（達成度90%～70%）は、14施策と昨年度より1施策増えました。

また、量C（達成度50%～30%）は1施策と昨年度より1施策減りましたが、量B（達成度70%～50%）は5施策、量D（達成度30%～0%）は4施策と、ともに昨年度より2施策増えています。

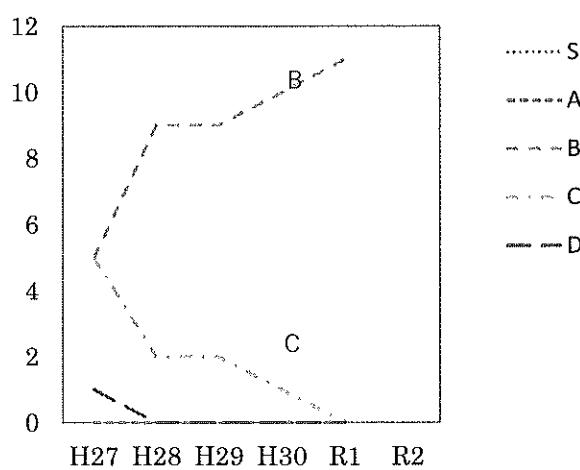
No.	基本目標	年度	検証結果						
			内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みがでていている	内容を理解し、取り組みができる	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり内容を踏まえて取り組めていない		
			質S	質A	質B	質C	質D	合計	
1	まちのだからで雇用を創る	H27	0	0	6	4	0	10	
		H28	0	0	6	4	0	10	
		H29	0	0	9	1	0	10	
		H30	0	0	10	0	0	10	
		R1	0	0	9	1	0	10	
		R2							
2	出会いと発見で人の流れを作る	H27	0	0	5	5	1	11	
		H28	0	0	9	2	0	11	
		H29	0	0	9	2	0	11	
		H30	0	0	10	1	0	11	
		R1	0	0	11	0	0	11	
		R2							
3	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	H27	0	0	8	7	0	15	
		H28	0	0	8	7	0	15	
		H29	0	1	8	6	0	15	
		H30	0	1	13	1	0	15	
		R1	0	2	13	0	0	15	
		R2							
4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	H27	0	0	11	2	1	14	
		H28	0	0	6	8	0	14	
		H29	0	0	11	3	0	14	
		H30	0	0	13	1	0	14	
		R1	0	0	14	0	0	14	
		R2							
総合計		H27	0	0	30	18	2	50	
		H28	0	0	29	21	0	50	
		H29	0	1	37	12	0	50	
		H30	0	1	46	3	0	50	
		R1	0	2	47	1	0	50	
		R2							

基本目標別質的（取組内容）検証結果

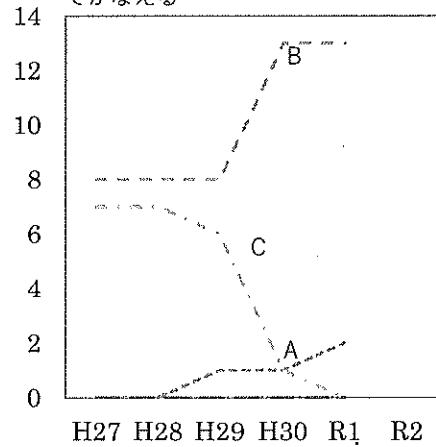
1. まちのたからで雇用を創る



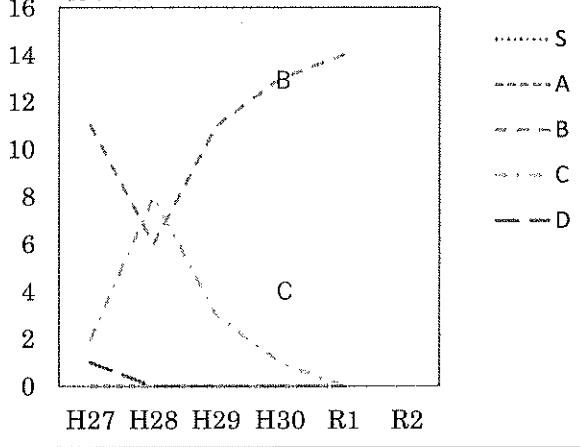
2. 出会いと発見で人の流れを作る



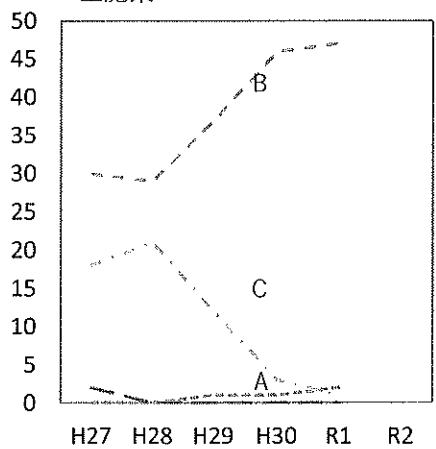
3. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる



4. くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる



全施策



全施策の質的（取組内容）検証結果では、質B（内容を理解し、取り組みできている）が昨年度より1施策増え、47施策となり、全体の90%以上を占めています。

次いで、質A（内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができる）が昨年度より1施策増え、2施策となりました。

また、質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）が昨年度より2施策減り、1施策となりました。

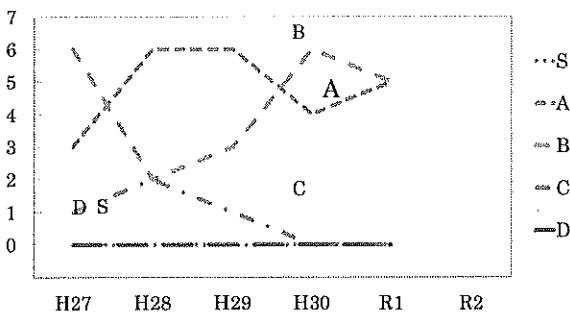
基本目標(1)	まちのたからで雇用を創る
まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	

主要実績評価指標(KPI)								
指標名	基準値(H26)	目標	H27	H28	H29	H30	R1	R2
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
			件	件(累計)	%	件	件(累計)	%
① 創業件数	21.2 %	0 件	目標 21.2 %	23.0 %	26.0 %	28.0 %	30.0 %	30.0 %
② 町内企業への新規学卒就職者の町内在住者比率		21.2 %	実績 26.7 %	18.7 %	10.0 %	23.9 %	25.6 %	
講すべき施策に関する基本的方向			達成率 100.0%	81.3%	38.5%	85.4%	85.3%	

- 「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。
- 農業などを通じて「地域資源」を見出し、付加価値を生み出すことでブランド化、さらなる有効活用を生み出すことで雇用を創ります。
- 地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。

施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	H27	0	3	6	1	0	10
	H28	0	6	2	2	0	10
	H29	0	6	3	1	0	10
	H30	0	4	6	0	0	10
	R1	0	5	5	0	0	10
	R2						

1. まちのたからで雇用を創る



基本目標①「まちのたからで雇用を創る」を構成する施策の検証結果は、A(優れている)が昨年度より1施策増え、5施策(50.0%)となっています。

また、B(実施できている)が昨年度より1施策減り、5施策(50.0%)となっています。

基本目標に対するコメント (まとめはP.87参照)

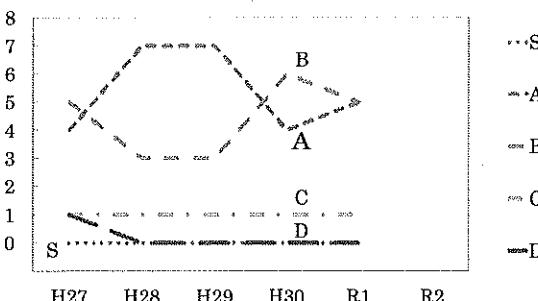
- ・「まちのたからで雇用をつくる」ことは、ジビエや日野菜、地場野菜のレストランはもちろんのこと、それだけに留まらず、日野のまち全体の環境の良さが、町内外からの“雇用を引き付ける”という視点を持ち、取組を進めてください。
- ・また、これからの中長期的な時代の新しい生活様式に備え、テレワークの増加により、シェアオフィスやコワーキングスペースなど、サテライトオフィスの可能性が広がっています。新たな雇用の創出とともに、今ある労働をこのまちに呼び込んでくる施策の検討も併せて取組を進めてください。
- ・時代の変化に対応し、研修等には、オンデマンド教材の活用も検討してください。

基本目標別検証結果

基本目標② 出会いと発見で人の流れを作る	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。						
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--

指標名		基準値(H26) 625,667人 (H2 4-H26)	重要業績評価指標(KPI)							
1	観光入込客数(年間)過去3年平均		目標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
			実績	619,500人(H25-H27)	595,400人(H25-H28)	569,166人(H27-H29)	573,333人(H28-H30)	625,166人(H29-R1)	635,000人(H29-R1)	636,000人(H30-R2)
2	転入者数(住民基本台帳)過去3年平均	人(H2 678 4-H26)	達成率	98.6%	94.6%	90.2%	90.6%	98.5%		
			目標	680人(H25-H27)	690人(H26-H28)	700人(H27-H29)	715人(H28-H30)	730人(H29-R1)	740人(H30-R2)	
			実績	717人(H25-H27)	713人(H26-H28)	715人(H27-H29)	696人(H28-H30)	765人(H29-R1)		
3	転出者数(住民基本台帳)過去3年平均	人(H2 806 4-H26)	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	100.0%		
			目標	800人(H25-H27)	780人(H26-H28)	760人(H27-H29)	730人(H28-H30)	710人(H29-R1)	710人(H30-R2)	
			実績	843人(H25-H27)	820人(H26-H28)	801人(H27-H29)	766人(H28-H30)	734人(H29-R1)		
講すべき施策に関する基本的方向		○まちの「だから」である観光資源・田舎体験等の多様な交流を通じ、まちの魅力と住民の誇りを醸成することで、観光客や町外の住人が日野町に関心を持ち、住民との交流によりさらに関心が深まり、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んで良かったと思える地域への愛着を芽生えさせ、育てていくことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。								
施策の検証結果状況		年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計		
		H27	O	4	5	1	1	11		
		H28	O	4	6	1	0	11		
		H29	O	7	3	1	0	11		
		H30	O	4	6	1	0	11		
		R1	O	5	5	1	0	11		
		R2								

2. 出会いと発見で人の流れを作る



基本目標②「まちのだからで雇用を創る」を構成する施策の検証結果は、A(優れている)が昨年度より1施策増え、5施策(45.5%)となっています。
 また、B(実施できている)が昨年度より1施策減り、5施策(45.5%)となっています。
 次いで、C(工夫が必要)が昨年度に引き続き1施策(9.0%)となっています。

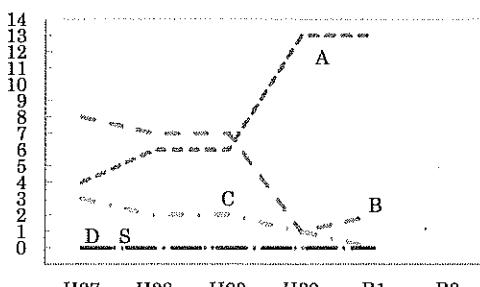
基本目標に則するコメント (まとめはP.87~P.89参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・移住・定住に結びつけるために、どのような人が日野町に移住を希望するのか把握する必要があります。移住を希望する人に日野の魅力を発信することが必要であり、そうした中で各施策の果たす役割があることを意識してください。 ・不便さを楽しむ暮らしができることが田舎の良いところであり、不便さ(二田舎)を楽しむ力を育てる田舎体験等は非常に重要です。今後、新型コロナウィルス感染症の影響によりこのような事業が実施できない状況をどのように乗り越えていくか検討してください。 ・インバウンドは、5年程は戻ってこないと思われます。社会が根底から変わっていることに早く気づき、ウィズコロナ社会の新しいあり方を考えることが必要です。 ・人や自然環境の良さは日野の魅力です。その良さを自治運営やKPIに表していくことを意識してください。 ・人と人が交流する田舎体験等の取組は非常に重要です。このような取組から生まれる交流人口・関係人口が移住・定住に結びつくように取組を進めてください。
-----------------------------------	---

基本目標別検証結果

基本目標③	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる
地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々のニーズにあつた切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	

重要指標評価指標(KPI)									
指標名	基準値(H26)		H27	H28	H29	H30	R1	R2	
1 出生数（住民基本台帳）過去3年平均	180人(H26) 4-H26 1.59倍目標 割合	目標	179人(H25-H27)	178人(H26-H28)	177人(H27-H29)	176人(H28-H30)	175人(H29-R1)	176人(H30-R2)	
		実績	174人(H25-H27)	174人(H26-H28)	159人(H27-H29)	156人(H28-H30)	160人(H29-R1)		
		達成率	97.2%	97.8%	89.8%	88.8%	91.4%		
2 合計特殊出生率	1.59倍目標 割合	目標	1.59	1.60	1.60	1.61	1.62	1.64	
		実績	1.51	1.48	1.38	1.58			
		達成率	95.0%	92.5%	86.3%	98.1%			
○結婚に向けた男女の出会いの場の創出を図ります。 ○出産に向けての負担の軽減により支援の充実を図ります。 ○子育てサポーター等、現状のサービスの充実や子育てに係る負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。									
講すべき施策に関する基本的方向									
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	現れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計		
	H27	O	4	8	3	0	15		
	H28	O	13	1	1	0	15		
	H29	O	6	7	2	0	15		
	H30	O	13	1	1	0	15		
	R1	O	13	2	0	0	15		
	R2								

3. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる



基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」を構成する施策の検証結果は、A(優れている)が昨年度に引き続き13施策(86.7%)となっています。

次いで、B(実施できている)が昨年度より1施策増え、2施策(13.3%)となっています。

昨年度、C(工夫が必要)は1施策ありましたが、今年度は改善されています。

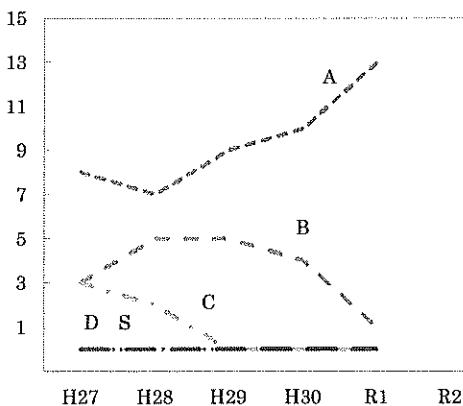
基本目標に対するコメント (まとめはP88~P89参照)	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標全体を通じて、若者が、出会い、結婚、子育てに至るプロセス全体から、出会いや結婚の際、どのような問題があるのか把握し、その問題に対応した施策となっているか検討するとともに、現金・現物給付の支援も効果はあると考えて、施策内容を見直す必要があります。 婚活は、公の取組なのかという疑問もあります。人間関係の希薄化が公に「婚活」をする根本的な課題と考えられます。もう少し前の段階から、社会教育の取組として、地域のつながりを深め、人同士のふれあい関わりの中で人を育成することが必要です。 全体に基本目標③の各施策は、近隣市町との動向を注視して行うものとなっています。人口の取り合いにならないように、より良い取組を進めてください。
---------------------------------	---

基本目標別検証結果

基本目標④	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる
家庭でのきずなはまちとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活発な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の見直しも含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	

重要業績評価指標(KPI)								
指標名	基準値(H26)		H27	H28	H29	H30	R1	R2
①人と人（複数の地域コミュニティ）をつなぐ場の創出	Oヶ所	目標	0ヶ所	5ヶ所	10ヶ所	15ヶ所	20ヶ所	20ヶ所
		実績	2ヶ所	5ヶ所	11ヶ所	16ヶ所	20ヶ所	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
○地域での人と人のつながり（きずな）を育むため、地域の多様なコミュニティが連携する住民主体の活動を支援します。 ○人と場所と機会をつなぐ、人材・資源を発掘します。 ○住民主体の出会いの場づくりにより、地域に暮らす人同士の「おたがいさま」の助け合い、自分の「自慢」を持ち寄り、生きがいを持てる仕組みをつくります。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。								
講すべき施策に関する基本的方向								
施策の検証結果状況								
年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計		
H27	O	8	3	3	0	14		
H28	O	7	5	2	0	14		
H29	O	9	5	0	0	14		
H30	O	10	4	0	0	14		
R1	O	13	1	0	0	14		
R2								

4. くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる



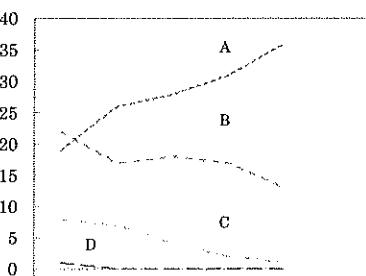
基本目標④「くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が昨年度より3施策増え、13施策（92.9%）となっています。

次いで、B（実施できている）が3施策減り、1施策（7.1%）という結果になっています。

基本目標に対するコメント (まとめはP.89~P.90参照)	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標④は「安心して住み続けられるまちをつくる」という目標であり、安心のための達成目標が設定されているかという視点が大事です。第三者から見て、やらされている感があるものになると「安心して住み続けられるまちになります。 住民が主体的に取り組むことができるということは、その人の「やる喜び」を生み出すとともに、安心して自信を持つ能够在ということです。また、その自信が自治につながっていきます。 町の事業や取組は、住民の協力で体制が整備されています。その中で住民の主体性を育む取組の工夫が必要です。 高齢化が進む今の時代において、健康寿命など「元気」でいることが非常に重要となっています。高齢者が元気でいることができるよう取組を進めてください。それが安心して住み続けられることにつながります。また、その取組を何歳から始めるかということも大切です。 地域活動等において活躍することで、心の豊かさが生まれ、健康寿命につながっています。積極的に取組を進めてください。また、地域活動等により生まれる地域のつながりは、主体性を育むことにもつながることから、現役世代をまきこんだ地域のつながりづくりの取組を進める必要があります。
-----------------------------------	--

No.	基本目標	内容	検証結果							検証委員からのコメント		
			目的を達成している S	優れていい A	実施できている B	工夫が必要 C	改善が必要 D	合計				
1	まちのだからで雇用を創る	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が生体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	H27	○	3	6	1	○	10	<p>・まちのだからで雇用をつくることは、ジビエや日野菜、地場野菜のレストランはもちろんのこと、それだけに留まらず、日野のまち全体の環境の良さが、町内外からの「雇用を引き付ける」という視点を持ち、取組を進めてください。</p> <p>・また、これから的是ズコロナ、アフターコロナの時代の新しい生活様式に備え、テレワークの増加により、シェアオフィスやコワーキングスペースなど、サテライトオフィスの可能性が広がっています。新たな雇用の創出とともに、今ある労働力をこのまちに呼び込んでくる施策の検討も併せて取組を進めてください。</p> <p>・時代の変化に応じ、研修等には、オンデマンド教材の活用も検討してください。</p>		
			H28	○	6	2	2	○	10			
			H29	○	6	3	1	○	10			
			H30	○	4	6	0	○	10			
			R1	○	5	5	0	○	10			
			R2	/	/	/	/	/	/			
2	出会いと発見で人の流れを作る	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。	H27	○	4	5	1	1	11	<p>・移住・定住に結びつけるために、どのような人が日野町に移住を希望するのか把握する必要があります。移住を希望する人に日野の魅力を発信することが必要であり、そうした中で施設の果たす役割があることを意識してください。</p> <p>・不便さを楽しむ暮らしができることが田舎の良いところであり、不思議（＝田舎）を楽しむ力を育てる田舎体験等は非常に重要です。その後、新型コロナウイルス感染症の影響によりどのような事業が実施できない状況をどのように乗り越えていくか検討してください。</p> <p>・インバウンドは、5年程は戻ってこないと想われます。社会が根柢を変わっていることを見抜くことが重要です。</p> <p>・人や自然環境の良さは日野の魅力です。その良さを自治運営やKPIに表していくことを意識してください。</p> <p>・人と人が交流する田舎体験等の取組は非常に重要なことです。このような取組から生まれる交流人口・関係人口が移住・定住に結びつくよう取組を進めてください。</p>		
			H28	○	7	3	1	○	11			
			H29	○	7	3	1	○	11			
			H30	○	4	6	1	○	11			
			R1	○	5	5	1	○	11			
			R2	/	/	/	/	/	/			
3	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々のニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	H27	○	4	8	3	○	15	<p>・基本目標全体を通じて、若者が、出会い、結婚、子育てに至るプロセス全体から、出会いや結婚の際、どのような問題があるのか把握し、その問題に对应した施策となっているか検討とともに、現金・現物給付の支援も効果は両面があると考えて、施策内容を見直す必要があります。</p> <p>・結婚は、公の取組なのかという疑問もあります。人間関係の希薄化が公に「結婚」をする根拠的な課題と考えられます。もう少し前の段階から、社会教育の取組として、地域のつながりを深め、人同士のふれあい関わりの中で人を育成することが必須です。</p> <p>・全体会に基本目標③の各施策は、近隣市町との動向を注視して行うものとなっています。人口の取り合いにならないように、より良い取組を進めてください。</p>		
			H28	○	6	7	2	○	15			
			H29	○	6	7	2	○	15			
			H30	○	13	1	1	○	15			
			R1	○	13	2	0	○	15			
			R2	/	/	/	/	/	/			
4	くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	家庭でのきずなはもとより、地域の人と人とのつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、地域の力を活かした課題解決能力を高めることで、住民の活動的な自治活動を持続発展させ、これまでの自治活動の貢献を含め、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	H27	○	8	3	3	○	14	<p>・基本目標④は「安心して住み続けられるまちをつくる」という目標であり、安心のための達成目標が設定されているかという視点が大事です。第三者から見て、やらされている感があるものがなくなる、「安心して住み続けられるまち」になります。</p> <p>・住民が主体的に取り組むことができるということは、その人の「生き言ひ」を生み出すとともに、安心して自信を持つことができます。</p> <p>・町の事業や取組は、住民の協力で体制が整備されています。その中で住民の主体性を育む取組の工夫が必要です。</p> <p>・高齢化が進む今の時代において、健康寿命など「元気」でいることが非常に重要となっています。高齢者が元気いることができる取組を進めてください。それが安心して住み続けることにつながります。また、その取組を何歳から始めるかということも大切です。</p> <p>・地域活動等において活動することで、心の豊かさが生まれ、健康寿命につながっています。積極的に取組を進めてください。また、地域活動等により生まれる地域のつながりは、主体性を育むことにもつながることから、現役世代をまきこんだ地域のつながりづくりの取組を進める必要があります。</p>		
			H28	○	7	5	2	○	14			
			H29	○	9	5	0	○	14			
			H30	○	10	4	0	○	14			
			R1	○	13	1	0	○	14			
			R2	/	/	/	/	/	/			
総 合 計			H27	○	19	22	8	1	50			
			H28	○	26	17	7	○	50			
			H29	○	28	18	4	○	50			
			H30	○	31	17	2	○	50			
			R1	○	36	13	1	○	50			
			R2	/	/	/	/	/	/			

全施策



..... S
.... A
-- B
- C
— D

総合戦略の全施策の検証結果では、A（優れていい）がH30年度実績では31施策であったのに対し、R1年度実績では36施策になり、年々増加しています。

次に、B（実施できている）が13施策、C（工夫が必要）が1施策の順になっており、C（工夫が必要）は年々減少しています。

4. 施策検証結果一覧

基本目標	施策ID	施策	検証委員からのコメント	年 度	検証項目					合計 検証点数	
					①KPI	②数量 取り組み状況	質的 取り組み	④基本目標事 業取り組み状況	⑤基本目標事 業今後の取り組み		
					量的検証	質的検証					
まちの たから で雇用 を創る	1 創業・第2創業の促進		<ul style="list-style-type: none"> 講座のあり方を見直してください。創業塾に集うことによる効果の部分（参加者の交流によって効果の高まる部分）と、知識の習得のための座学部分を切り離すなど講座の展開方法を見直してください。 座学部分にはオンデマンド教材を作成したり、他の自治体の学習素材や、国・県提供の学びの機会に関する情報提供を行ってください。 受講者数の減少傾向から、事業の必要性も含めて検討を行うなどの一般的な見直しが必要です。地方創生カレッジ（内閣府事業）など、創業に限定せず、地方創生全般に関わる学びの場の情報提供と、日野における地方創生人材育成に努めてください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> シェア・オフィス（コワーキングスペース等）の整備も検討してください。コロナ禍での在宅勤務、テレワークの拡大に対応するものとして、また、新しいインフラとして検討してください。 	H27	10	2	2	1	1	16	
				量S	質C				B		
				H28	6	2	2	2	2	14	
				量B	質C				B		
				H29	4	3	2	2	2	13	
				量C	質B				B		
				H30	5	3	2	2	2	14	
				R1	量B	質B				B	
				量B	質B				B		
				R1	5	3	3	3	3	17	
				量B	質B				B		
まちの たから で雇用 を創る	2 地域内経済循環の推進		<ul style="list-style-type: none"> 地域内経済循環の推進については、多様な方法があると考えられますか。実施されている政策をみると、農泊、住宅リフォームなど政策手段が限られているように見えます。 住宅リフォームを街並み保全など景観形成政策をリンクさせる検討をH30には行うと記述がありました。R1ではその検討結果がありません。他の政策とのリンクは積極的に取り組み、効果を上げられるよう努めてください。 コロナ禍で農泊には、今後困難な状態が続く可能性があるため、代わりとなる手段を早急に検討してください。考えにあたっては、住民の主体性を重視して、住民発の企画を生み出しあらえるよう取り組んでください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内経済循環を把握する調査研究に基づいた政策立案が求められます。政策立案の基礎となる実証データの収集等が必要です。 	H27	8.5	2	1	1	1	13.5	
				量A	質C				B		
				H28	10	3	4	2	2	21	
				量S	質B				A		
				H29	9	4	3	2	2	20	
				量S	質B				A		
				H30	10	3	3	3	3	22	
				R1	量S	質B				A	
				8	3	2	3	3	3	19	
				R1	量A	質B				A	
まちの たから で雇用 を創る	3 企業誘致と企業・異業種 間の交流促進		<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致、ガイドブック作成、異業種交流の場をつくるところから、成すべき成果を見据えた事業設計をする必要があります。 企業の持つ技術や仕事の可能性を評価できる専門職が必要であれば雇用することも検討してください。 企業情報の収集が、政策立案の基礎となるように工夫する必要があります。 異業種間交流や協力関係の構築などを推進していく意味を十分に理解して施策を行ってください。 町内雇用確保のためにには工業団地への企業誘致が必要であり、起業、雇用の確保（可能なら工業団地そのもの）を促進することが必要です。 雇用を確保しても町内の若者の就労ニーズとは結び付かず、町内の雇用につながらない状況です。学校教育での工場見学等で町内企業等の取り組みを知る機会をつくることも検討してください。 新しいことを始めた若い人に向けた研修会やセミナー等がなく産業振興につながっていないように感じます。実施している研修等が人を育てているか、雇用に結びついているか検証してください。 	H27	5	2	3	2	2	14	
				量B	質B				B		
				H28	5	2	2	2	1	12	
				量B	質C				C		
				H29	6	2	2	1	2	13	
				量B	質C				B		
				H30	7	3	3	2	2	17	
				R1	量A	質B				B	
				8	2	2	2	2	2	16	
				R1	量A	質C				B	
まちの たから で雇用 を創る	4 魅力ある商店づくりの促進		<ul style="list-style-type: none"> 施策が「魅力ある商店づくりの促進」と商店の質的向上を目指していますが、KPIは商工会員数と「量」を指標としています。質的向上から「量」につながるとも考えられますが、質的向上を定量的に測る方法も工夫してください。 後継者育成の総合的な政策が必要です。家業の継承（跡継ぎ）の可能性の追求から始まり、第三者譲承、新規創業支援など、まちの商業構造への関与、支援が必要です。また、将来予測が跡継ぎ可能と判断できる条件も考える必要があります。 地図シールラリーセールなどイベントの効果想定や町内商店販売品の生産地調査（県内産・町内産）などを行い、地域内経済循環の効果測定を図ってください。 まちの地域資源を活かし、住民主体、地域内経済循環をつくる施策について、再考する必要があります。従来のイベントも、生み出す効果、目標の再定義を行い、その到達目標を達成するように検討してください。マルシェ・直売所などは有効な手段です。他部署とも連携して実施の工夫を行ってください。 まちの地域資源を活かす取組みを検討してください。 	H27	9	3	2	2	2	18	
				量S	質B				B		
				H28	9	3	3	2	2	19	
				量S	質B				A		
				H29	9	3	3	2	2	19	
				量S	質B				A		
				H30	9	3	3	2	2	19	
				R1	量S	質B				A	
				9	3	3	2	2	2	19	
				R1	量S	質B				A	

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数		
				①KPI	②地図 取り組み状況	③指標 今後の取り組み	④基本目標達成 取り組み状況	⑤基本目標達成 今後の取り組み			
まちの たから で雇用 を創る	5	農業経営体の育成	<p>・腰の担い手の裾野を広げる視点を持った施策の上に、「人・農地プラン」作成の施策を展開する必要があります。「地域（集落）を守る視点」が重要です。「今後の課題」として明記された点は評価しますが、住民が腰に关心を持ち、腰に向かう気持ちを持ち、活動が広がること（生産農家とならず家庭菜園でも良い）からも「住民が自分たちの集落をする意識」が徐々に醸成されることにつながります。</p> <p>・記述からは、半作中心・補助金制度中心の既述のように見受けられます。団・県の補助金制度を活用しながらも、日野町にとって必要な施策になるような工夫が必要です。</p> <p>・「今後の課題」の記述は重要です、住民の集落を守る意識の醸成と農業の振興を図ってください。</p> <p>・地元企業・商工会との連携、町内雇用の増につなげるような視点を持って取り組んでください。</p> <p>・農業経営体の問題は、実際に農業に従事しているのみに働きかけるのではなく、地主や地区にも働きかけることが必要です。それが担い手問題の解決にもつながります。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略は、腰の担い手の裾野を広げることを大きな目標に据え、集落を守る機運を高めることを目標（経済性の追求より地域を守ることに力を注ぐに目標）にしてください。 ・一方で、経済的にも成長していく基盤の確立・雇用の創出も（補助金制度メニューも）実施してください。また、経済的追求だけにしない施策を検討してください。農政は経済性を追求するものではありませんが、日野のまちと集落を守るのには時間が必要です。 	H27	10	3	3	3	3	22	
				量S	質B					A	
				H28	10	3	3	2	2	20	
				量S	質B					A	
				H29	10	3	2	2	3	20	
				量S	質B					A	
				H30	8	3	2	3	2	18	
				R1	量A	質B					B
				R1	7	3	3	2	2	17	
				R1	量A	質B					B
まちの たから で雇用 を創る	6	地元野菜生産者の担い手育成	<p>・（出荷者と思われる）野菜生産者が増加している点は評価します。昨年コメントにもある「農」の担い手の裾野を広げる取り組みとの連携・連続性を次期総合戦略では検討してください。</p> <p>・町内で生産された野菜の流通の全体像を把握し、調査する必要があります。</p> <p>・イベント等で地元産野菜の販売が行われているようですが、消費者側の地産地消の機運を高める取り組みが必要です。</p> <p>・野菜生産者の増大によって、地域の所得の増大がどの程度であるのかを把握する必要があります。</p> <p>・地元企業・商工会との連携や、雇用拡大への視点を持って取り組んでください。</p>	H27	10	2	2	3	3	20	
				量S	質B					A	
				H28	9	4	3	2	2	20	
				量S	質B					A	
				H29	10	3	3	3	2	21	
				量S	質B					A	
				H30	9	4	3	3	2	21	
				R1	量S	質B					A
				R1	10	3	3	2	2	20	
				R1	量S	質B					A
まちの たから で雇用 を創る	7	日野菜のブランド化の促進	<p>・付帯面積の拡大、販売取引件数の増加は評価できます。</p> <p>・「お金」に変えて収入が得られないと継続しません』の記述がありますが、これは生産農家の話です。住民の中に出荷生産者とはならなくても、多くの方が自家用に生産されていると思われます。非農家の方にも関心を持ってもらい、まちの文化としての裾野を広げることも含めての原産日野菜のブランド化を進めることができます。</p> <p>・「日野菜の発祥地」をPRしている点は評価します。</p> <p>・情報発信、ブランド化、有効活用の研究について検討してください。</p> <p>・ブランド化のためには、基準を満たす良いものを作るとともに、知名度を上げる取り組みをすることが必要です。</p> <p>・日野菜の販売・ブランド化には生産者育成を農業協同組合とともに行なうことが必須であり、さらに町から農業協同組合に働きかけることが必要です。</p> <p>・研修会の方針の見直し等、知識の普及の仕方を考える必要があります。</p> <p>・研修のあの方は、現場に行かないといわからないもの以外は、オンラインマントド化することも検討してください。（例：日野菜の栽培方法など）</p> <p>・日野菜の販売方法については、現状のままではそのうち生産すらできなくなることが考えられるため、何らかの新しい発想が必要です。</p> <p>・ブランド化については、ブランド化をするという発想に至った経緯・原点をもう一度意識する必要があります。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益性の向上のためには、ブランド化・高価格での出荷は不可欠です。作業の効率化・品質向上のための出荷時の市場価格の把握、平均的な反当り収益率の推計など営農の基礎条件を明らかにし、生産者に情報提供することを検討してください。 	H27	9.5	2	2	2	2	17.5	
				量S	質C					B	
				H28	8	3	3	3	3	20	
				量A	質B					A	
				H29	7	3	3	3	2	18	
				量A	質B					B	
				H30	7	3	2	3	2	17	
				R1	量A	質B					B
				R1	8	3	2	2	2	17	
				R1	量A	質B					B
まちの たから で雇用 を創る	8	豚肉の利活用を促進	<p>・取引先の数が増えていることは評価します。取引の頭数・重量・取引高（金額）などの数値が判らないので、実態として豚肉の利活用が進んでいるとの評価は難しいと考えます。KPIは、利活用が進んでいることを示す数値（頭数・取引重量・取引高）であることが重要です。基本目標・基本的方向に関して、雇用などで行かずとも所得の増につながる部分を、貢献評価でなくとも、従事時間、従業者数、従事延べ人数などの統計も必要です。</p> <p>・コミュニケーション化は困難であるとH30に記述がありましたが、R1も困難なこと、今後の課題に明記されており、それを実行・解決する必要があります。京都府立看護専門学校卒業生がジビエの加工・流通会社を起業したように条件があれば可能だと考えます。政策当局の生業観、コミュニケーションビジネス観が問われています。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獣害対策と本施策はセットであり、中山間地の暮らしを守る施策としての総合的な施策が必要だと考えます。次期総合戦略は、住民の理解を深める施設を取り入れる必要があります。 ・取引先の増は地元企業との連携の増とも考えられますか、基本目標・基本的方向の連携・情報発信・雇用の増などの視点を持って取り組んでください。 	H27	10	2	2	2	3	19	
				量S	質B					A	
				H28	10	3	3	3	2	21	
				量S	質B					A	
				H29	10	3	2	2	2	19	
				量S	質B					A	
				H30	10	3	2	2	2	19	
				R1	量S	質B					A
				R1	10	3	3	2	3	21	
				R1	量S	質B					A

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標第 取り組み状況	⑤基本目標第 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				
まちの たから で雇用 を創る	9	若者等の就職相談窓口の整備	<p>・日野町の若者に、どのようにして日野町で活躍してもらうのか、しっかりとした考察が必要です。</p> <p>・コロナ禍で在宅勤務の可能性が広がり、農村回帰の動きは一層強まると考えられます。農村回帰を志す若者（中高年も含めた）の移住・定住先として日野町が選ばれるときの就職相談窓口としての総合的な（高度なコーディネート能力が必要）窓口機能が必要です。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 「町のキャリアセンター構想」として、18歳で高校時から町外に出てもコンタクトを持ち続け、リターン情報等を伝え、大卒新卒用の転職として地元に帰る人を対象にすることも一つの手段です。 	H27	0	3	2	2	2	9
				量D	質B				C	
				H28	0	2	2	2	2	8
				量D	質C				C	
				H29	0	3	3	3	3	12
				量D	質B				C	
				H30	4	3	2	3	2	14
まちの たから で雇用 を創る	10	高齢者の生きがい創出	<p>・施策が、高齢者の世代内に閉じているようにみえるので、次の世代に継続や知識をつなぎ、生業を盛んにすることなども意識した施策となるよう努めてください。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合戦略の施策上、高齢者の知識・技能を次の世代に継承していくことが明記されていなかったので、次期総合戦略には明記するとともに、高齢者の生きがいにつながる仕事づくりや次世代への継承も行うことなども検討してください。 	H27	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				H28	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				H29	9	3	3	3	3	21
				量S	質B				A	
				H30	8	3	2	3	2	18
				R1	量A	質B				B
				R1	8	3	3	3	3	20
				R1	量A	質B				A

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数
				①OKP!	②施策 取り組み状況	③指標 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
				量的検証	質的検証				
出会いと発見で人の流れを作る	1 体験型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> 三つの体験型観光の事業実施は良好なように思われますが、その先に移住・定住につなげる視点と工夫を組み込むことが必要です。 棚田の保全策（農政）とも連携して、体験型観光のコンテンツとして維持する方策を検討してください。 農泊を町内小学生に拡大したことは評価します。暮らしの文化、知恵の伝承、小学生の地域への愛着などを育む事業としても再定義するとともに、内容の再検討を行ってください。 移住・定住はどのようにすすむのかを具体的に考えながら施策の工夫を行つ必要があります。町出身者、町外（県外）出身者など背景の違う人たちが、移住・定住の決断をしていくポイントを押さえた「移住・定住促進プラン」の中で、日野町に関心を持ってもらえるきっかけとして本施策を位置づけたとき、改善すべき点はないか再検討してください。 役場として、地域社会として移住・定住觀を明らかにして、戦略的取り組みが求められています。 滞在して体験してもらうこと、オンラインでも伝えられることなど体験で学んでもらう中身について精査すると、研修プログラムの改善にもつながります。 移住・定住につなげる取り組みを検討してください。 	H27	5.3	2	1	1	1	10.3
			量B	質C				C	
			H28	10	4	3	2	2	21
			量S	質B				A	
			H29	8	3	3	3	3	20
			量A	質B				A	
			H30	7	3	3	3	2	18
			R1	量A	質B				B
出会いと発見で人の流れを作る	2 観光受入体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 観光ボランティアの減少に歯止めがかからていません。 移住・定住につながる取り組みになる「観光受入体制」について検討してください。 交流を生むための情報発信が住民にも届き、住民の愛着を育む工夫をしてください。 「集客力のある観光資源」と「(町内の)歴史文化資産を結び」の「結び」の部分が不明確であり、施設整備は一定進んでいますが、観光ボランティアの育成などは後手にまわっています。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアに限らず、観光関連事業者の人材養成も必要です。 ・今後の取り組みとしてガイドの育成について検討してください。 	H27	10	3	3	3	3	22
			量S	質B				A	
			H28	9	2	3	1	2	17
			量S	質C				B	
			H29	8	3	3	3	3	20
			量A	質B				A	
			H30	6	3	3	2	2	16
			R1	量B	質B				B
出会いと発見で人の流れを作る	3 日野の「だから」情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> 日野の「だから」情報発信の戦略を熟者してください。基礎自治体のHPとしての使いやすさから、住民が日常的にふれることで、日野の「だから」について知り、学ぶことができ、住民の定住意識が高まるようにしてください。そのうえで、外部（町外）からHPを見ると日野への関心を高めてもらえるよう取り組んでください。それが交渉につながり、移住・定住につながるには、大きな段差があると思います。 住民主体のSNSを活用した発信について検討してください。 移住・定住に結びつく情報発信の課題を研究してください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日野大当番仲間」の構想は、実現困難であるならば、KPIには採用せず、長期的な目標にすることを検討してください。 	H27	5	3	3	2	2	15
			量B	質B				B	
			H28	4	2	3	2	2	13
			量C	質B				B	
			H29	5	2	2	2	2	13
			量B	質C				B	
			H30	5	3	3	2	2	15
			R1	量B	質B				B
出会いと発見で人の流れを作る	4 日野の「だから」の伝承促進	<ul style="list-style-type: none"> 日野の「だから」の伝承促進には、「住民の理解」「外部への発信」の両面があります。両面を分けて考えること、住民側には伝承の担い手としての関心、関わる人を増やしていくことが必要です。担い手が増え、外への発信、住民の中での伝承もより広く深くなります。 まちごとの移住・定住網を確立し、それに資する「伝承促進」になるように事業の組み立てを行ってください。 新型コロナウイルスの影響から県境を超えた移動が今後も停滞するかもしれません。遠くからの交流人口から県内の交流人口、周辺自治体との交流など、コミュニケーションツーリズムが盛んになる可能性もあります。態度の高い県内の方にアピールするコミュニケーションツーリズムのコンテンツとして、本施策の内容は重要なツールになります。 「伝承」の担い手の裾野を広く交流人口まで考えると、交流できた方向けの「伝承」と、住民への「伝承」とは区分が必要になる可能性があります。多様な形で「伝承」が促されるように工夫が必要です。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本施策は、学びから観光・交流の拡大を目指すものであるとともに、移住・定住に結びつく学びの場をつくる施策となっているため、取り組みを進めることが困難な施策であると考えます。 ・次期総合戦略は本施策と施策2-5をまとめてることも検討してみてください。 	H27	10	2	2	2	1	17
			量S	質C				B	
			H28	10	3	3	2	2	20
			量S	質B				A	
			H29	10	3	3	3	3	22
			量S	質B				A	
			H30	10	3	3	3	3	22
			R1	量S	質B				A

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数		
				①KPI	②施策取り組み状況	③施策今後の取り組み	④基本目標取り組み状況	⑤基本目標等今後の取り組み			
				量的検証	質的検証						
出会いと発見で人の流れを作る	5 伝統文化等後継者育成の促進		<p>・KPI参加者数等の目標を達成されていますが、その学びが定着していく、後継者育成ができるのかは定かではありません。「取り組み状況」で述べられているような初步の萌芽の取り組みの上に、次の施策が必要になるので、次期総合戦略は次の施策として新しいものを工夫してください。一例としては、日野町検定の設定、後継者となった比較的若い世代を支援するなどの取り組み、若い世代を育てた高齢者を顕彰したり、リーダーとして認めることなどが考えられます。また、施策2-4、施策1-10との関連性も工夫が必要です。</p> <p>・「日野町を紹介できる気風」とは、「遠野の小学生が民宿で遠野的物語を話す」水準を目指すことは自ずと変わってくると考えます。</p> <p>・観光ボランティアの減少が施策2-2で述べられていましたが、本施策の上に観光ボランティアも増加していくような取り組みを検討してみてください。教育・生涯学習の成果と住民意識を変え、観光の受け入れ環境の改善にもつながる施策の総合性を十分に検討してください。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の観光ボランティアに加えて、検定合格者のボランティアも出でると活性化すると考えます。 	H27	10	2	1	2	1	16	
				量S	質C				B		
				H28	10	2	2	2	1	17	
				量S	質C				B		
				H29	10	3	3	3	2	21	
				量S	質B				A		
				H30	10	3	2	3	2	20	
				量S	質B				A		
				R1	10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A		
	6 生涯学習の機会の充実			H27	10	1	2	1	2	16	
				量S	質C				B		
				H28	10	3	3	2	1	19	
				量S	質B				A		
				H29	10	3	2	2	2	19	
	7 定住支援相談窓口の整備			量S	質B				A		
				H30	8	3	3	3	3	20	
				量A	質B				A		
				R1	5	3	3	3	3	17	
				量B	質B				B		
8 空き家を活用した定住促進				H27	10	3	3	3	2	21	
				量S	質B				A		
				H28	10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A		
				H29	5	3	2	3	3	16	
				量B	質B				B		
				H30	8	3	3	2	2	18	
				量A	質B				B		
				R1	8	3	3	3	3	20	
				量A	質B				A		

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				
出会いと発見で人の流れを作る	9 空き地等を活用した定住促進	<p>・経済的基礎体力のある層で、日野に空き家ではなく空き地を求める、新築を考える人が、関心を持つルートを考える必要があります。</p> <p>・移住・定住観を明確にすると本施策も別の形で重要になると考えます。</p> <p>・コロナ禍でテレワークが可能となり拡大していくなら、農村回帰も進む可能性があります。シェアオフィス、コワーキングスペースの整備などともあわせて日野町への移住の高付加価値化をはかることで、施策2-8とともに一層意味をもつことになると考えます。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今の移住・定住希望者にとって、空き地の購入から新築というのはハードルが高いと考えられます。定住後の新築用地などなら可能性があります。 	<p>H27</p> <p>〇</p> <p>量D</p> <p>H28</p> <p>〇</p> <p>量D</p> <p>H29</p> <p>〇</p> <p>量D</p> <p>H30</p> <p>〇</p> <p>量D</p> <p>H31</p> <p>〇</p> <p>量D</p>	2	2	1	1	6		
				質C				D		
				2	2	3	3	10		
				質B				C		
				3	3	3	3	12		
				質B				C		
				4	3	2	2	11		
				質B				C		
出会いと発見で人の流れを作る	10 多文化共生の推進	<p>・入管法等の改正により、今後、県内・町内で働く外国人の方は増えると考えます。コロナ禍でその動きは少し先になるかもしれません、大きな方向性は変わらないと考えます。そういう観点で次期総合戦略の改訂を考え、施策内容を見直しが必要です。①住民が多文化共生への理解を深めること、それも、実際に住む外国人が増える中の理解を深めること、②住む外国人の方々が、日本や日野への理解を深めてうまくやっているようにすること、この①②の施策を意識する必要があります。また、②に対する課題を意識してください。</p> <p>・コロナ禍で使節団の派遣がしばらく難しいかもしれません、オンラインでの交流を手伝ったり参加されれば実践的になります。</p> <p>・多文化共生の推進をかかるオーディオ教材の作成などを通じて、外国人の人からみて、日野が多文化共生の地として理解が広がるように努めてください。</p> <p>・日本語教室などを検討してください。</p> <p>・語学教室だけでは多文化共生は困難なことがあります。</p> <p>・多文化「共生」が多文化「強制」となっており、これらの文化を押し付けているだけではなく、相手国の文化も知ることから共生が生まれると考えます。</p> <p>・外国人の子どもに対する教育については母語による教育が次の課題です。</p>	<p>H27</p> <p>9</p> <p>量S</p> <p>H28</p> <p>10</p> <p>量S</p> <p>H29</p> <p>10</p> <p>量S</p> <p>H30</p> <p>10</p> <p>量S</p> <p>H31</p> <p>10</p> <p>量S</p>	3	3	2	2	19		
				質B				A		
				3	3	2	2	20		
				質B				A		
				3	3	3	3	22		
				質B				A		
				2	2	2	2	18		
				質C				B		
出会いと発見で人の流れを作る	11 スポーツによる交流の促進	<p>・住民間交流の事業だけでなく、「交流から移住につながる」目標に向けて、移住前のスポーツの交流から日野を知り、日野に暮らすことを考えるような環境づくりが求められています。</p> <p>・「基本目標・基本的意向を踏まえての状況」において、交流の拡大、移住への視点を持って取り組みを進めてください。</p> <p>・移住・定住に向けたスポーツとしてではなく、単純な社会スポーツとしての交流を促進することを検討してください。(総合戦略に位置付けるには多少無理があると考えます。)</p> <p>・日野町のみで実施するスポーツは健康志向として実施することを検討してください。</p> <p>・他市町の参加があるスポーツはそれが交流となり、日野の子どもたちに必要なスポーツ振興につながります。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当課が住民の社会体育として運用しているのは評価できますが、移住・定住に結びつく工夫をしてください。まったくできない事務事項であるならば、次期総合戦略においては総合戦略の施策からはずすことも検討してください。 	<p>H27</p> <p>9</p> <p>量S</p> <p>H28</p> <p>10</p> <p>量S</p> <p>H29</p> <p>8</p> <p>量A</p> <p>H30</p> <p>7</p> <p>量A</p> <p>H31</p> <p>6</p> <p>量B</p>	1	1	1	1	13		
				質D				B		
				3	2	2	2	19		
				質B				A		
				2	2	2	2	16		
				質C				B		
				3	3	2	2	17		
				質B				B		
				3	2	2	2	15		
				質B				B		

基本目標	施策ID	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	1	出会いの場の創出	<p>・本施策は「出会い系から結婚まで」を担当していますが、出会い系から婚嫁に至るまでの間にどのような支援が必要なかを考える必要があります。</p> <p>・地域の婚活イベントに「地域の人とのつながり」を自覚した点は高く評価します。その一方で、広域、町、地域の多様なタイプの婚活イベントの役割分担を考える必要があります。</p> <p>・「追跡調査が困難」であり、「結婚までの支援が困難」との記述がありますが、そもそも「結婚までの支援」として何が必要か政策担当者として自覚し、どこまでが行政の役割であるか考えてください。結婚支援事業のカップル成立だけに注目しているが、カップルの結婚に至り」「日野町に住む」までの全プロセスを検証し、行政の役割をどこで発揮するべきかを明らかにしてください。そうすると、「支援」は日野町の若者カップルへの普遍的施策であると考えます。追跡方法も、カップル認定証をもって婚活票を出す、転入届を出すと記念品をもらえる等により数値を把握することができますとともに、途中のプロセスでの支援ツールになります。手法の検討が必要です。</p> <p>・「結婚観の多様化」に言及していることは評価します。多様化的現実を把握し、公共施策として向すべきかを考える必要があります。また、結婚していない人を追い詰めない配慮も必要です。</p> <p>・即、広域、地域と多様なタイプの婚活事業の役割分担を考えてください。</p> <p>・グラフキュビドン制度の「広報ひの」の今後の掲載を検討して下さい。</p> <p>・「取り組み状況」は事業内容の変化で記述内容が変わっていますが、「今後の取り組み」は政策担当者の見通しが変わらなければ変更はないと考えます。</p> <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略では地域との関係も考える必要があるとともに、関連してKPIも見直す必要があります。 	H27	9	2	2	1	3	17
				量S	質C				B	
				H28	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				H29	10	3	2	2	2	19
				量S	質B				A	
				H30	10	3	3	3	3	22
				R1	量S	質B				A
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	2	産み育てやすい環境の充実	<p>・昨年の外部検証を踏まえて、施策、事業を工夫している点は評価します。</p> <p>・施策内容は「経済的負担の軽減」「経済的支援」となっています。基本的方向の「出産に向けての負担軽減」を検討してください。また、負担軽減は経済面だけではないので、どのような負担があり、希望を叶えるうえでの障害になっているのかを分析してください。</p> <p>・健康推進員が関与することが適切であると考えている理由を明らかにした上で、他の関与するグループ（人々）等の育成が必要です。</p> <p>・「地域のつながり」が地域からの健康推進員だけではなく多様なつながりができるように工夫をしてください。</p> <p>・「つながりを持ちにくく」への対応は引き続き重要です。行政的関わり方も工夫が必要です。全国、他自治体の優れた事例に学ぶ等引き続き取り組んでください。</p> <p>・地域のつながりのイメージが固定的に思われます。</p>	H27	10	3	2	2	1	18
				量S	質C				B	
				H28	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	
				H29	9	3	3	2	2	19
				量S	質B				A	
				H30	10	2	3	3	2	20
				R1	量S	質B				A
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	3	乳幼児健診における保健指導の充実	<p>・基本目標のかがけるエッセンスである「地域のなかで」「切れ目のない支援」を考える必要があります。</p> <p>・保護者同士のつながりづくりだけでなく、（年の近い）先輩パパママとのつながり等をつくり、子育てを起点にした地域のつながりをつくることも考えてください。</p> <p>・子育て中の母親が地域とのつながりが薄いことが問題です。子どもが生まれる前（妊娠中）に学びを提供し、地域とのつながりを準備することが大切です。</p>	H27	9	2	2	2	1	16
				量S	質C				B	
				H28	9	2	2	2	2	17
				量S	質C				B	
				H29	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				H30	9	3	3	2	2	19
				R1	量S	質B				A
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	4	保育所の整備	<p>・園周辺の散歩は、地域のつながりを深めるものであり非常に大切なことです。引き続き実施し、地域とのつながりを深めてください。</p> <p>・現状、子どもの主体性を引き出す保育になっていないようを感じます。「怪我のないように」と手をかけている割には子どもの要求に応えられていないように感じます。子どもの要求を待ち、子どもの主体性を育むことが大切です。</p>	H27	8	3	3	2	2	18
				量A	質B				B	
				H28	10	3	3	3	3	22
				量S	質B				A	
				H29	10	3	4	2	2	21
				量S	質B				A	
				H30	10	3	3	4	3	23
				R1	量S	質A				A
				量D	質A				B	13

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②他機 取り組み状況	③他機 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	5	子育て期間中の保護者の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> 孤立しがちな親子について、「切れ目のない支援」となっているか検証するとともに、実態把握を行い、必要な施策を検証する必要があります。 支援者の育成について、場の提供から育てることのできる仕組みを検討し実施することが必要です。 子育てサロンにおいては、他の人が見たり聞いたりすることが大切です。話すだけでも「こうしよう」という工夫が生まれます。 子育てサロンは担当課においても情報収集の場となっています。 子育てサロンの主体性を引き上げる工夫の検討が必要です。 	H27	10	2	1	2	2	17
				量S	質C					B
				H28	10	2	2	2	2	18
				量S	質C					B
				H29	10	2	2	2	2	18
				量S	質C					B
				H30	9	3	3	4	2	21
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	6	子育て支援員の確保	<ul style="list-style-type: none"> 支援員養成研修の周知が支援員の獲得につながるか確認してください。支援員確保のプロセスを全体として見直してください。 支援員の潜在的必要数、緊急の必要数を市下するためには、計画的な支援員の養成が必要です。必要数を把握し、計画的養成に努めてください。 KPIは100%達成ですが、1年で1名のみの達成となっています。「支援員の確保は喫緊の課題」としていますが、必要人數がわからず、緊急度も明らかではないので、KPIがKPIとしての役割を果たしていないように感じます。 支援員に求められる専門性とそれにふさわしい報酬であるのか検討してください。 元保育士、幼稚園教諭の退職者への募集は方法としてはありうる考えますが、元来本人がもっている資格の専門性や経験への敬意をもったアプローチが必ずです。 基本的方向の3つ目「負担の軽減」につながる施策として一翼を担っていることを留意して進めてください。 「基本目標・基本的方向を踏まえての状況」の中で、さらに「周知する」と記入していますが、周知をすると「地域のつながり」から支援員がわいて出てくるわけではない実情はよくわかっているはずなのに、手立てが限局的、限界のあるものに見受けられます。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略では、支援員の活躍の場の拡大をKPIとして設定するなど他の工夫も必要です。 	R1	8	3	4	3	3	21
				量A	質A					A
				H27	10	1	3	1	2	17
				量S	質C					B
				H28	7	2	2	2	2	15
				量A	質C					B
				H29	9	2	2	2	2	17
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	7	ファミリーサポートセンターの整備	<ul style="list-style-type: none"> サービスの提供が、協力者を増やす循環ができている点は高く評価します。 協力会員の業務の広がりがサービス利用者を増やします。研修を積むことが、サービスの拡大、子育て環境の改善につながっていることに留意を取り組んでください。 サービスの消費者からまちづくりの担い手を育てる可能性のある事業であります。提供会員が増えると、将来、3-5、3-6の施策の予備軍的に裾野を広げることができます。 会員増と「地域のつながり」を指摘していますが、子育て世帯が地域のつながりを深める契機にもなるよう工夫をしてください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略のKPIには、利用件数、利用時間、サービスによって確保された保護者の時間等を検討してください。 両方会員の増加も、KPIにしなくても、行政側としては一定引き上げれることを目標にすることを検討してください。利用者という消費者から協力者という供給側、まちの子育て環境を支える側に立ってもらう経験は、3-5、3-6の施策とも関わって重要だと考えます。 	H30	10	3	2	3	2	20
				量S	質B					A
				R1	10	2	3	2	2	19
				量S	質B					A
				H27	0	3	3	2	2	10
				量D	質B					C
				H28	10	2	2	2	2	18
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	8	交流できる場の充実	<ul style="list-style-type: none"> KPIは、一か所整備がなされると数量的検証が10点となり、町が接着に取り組んでいる「交流できる場の充実」の全体像も的確には表せていないと考えます。 「切れ目のない支援」につながる協議を行なうありますが、「切れ目のない支援」につながるように、ニーズにあわせた交流の場を充実させてください。その支援と、住民の利用から住民主体の取り組みが生まれてくるような工夫をしてください。 住民をサービスの単なる利用者（消費者）にするだけでなく、そこから住民の主体的取り組みを生み、施策3-5、3-6の支援者、支援員を輩出できないか検討してください。 多世代交流のニーズを調べ、地盤ぐるみでの子育て支援の確立、施策3-5の支援者、施策3-6支援員の獲得等にもつなげてください。 多世代交流のニーズ把握により、施策3-8の必要性を示すとともに、本施策では実現できないニーズの充足の方策を検討してください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略では、拠点の活用と多様なニーズを充足する交流の場（分散的、多様な場）に分けたり、KPIも、分散している状況や利用者数等動きのわかるKPIとして設定することを検討してください。主体的に活動する住民（利用者）グループの発生もKPIに設定してもらいたいと考えます。 「基本目標・基本的方向を踏まえての状況」において、「実施できていないこと」とされている「子育てを地域ぐるみで行われる」ように、仕掛けと仕組みづくりを次期総合戦略においては明確な目標にして取り組んでください。 	H29	10	4	2	3	3	22
				量S	質B					A
				R1	10	3	3	3	2	21
				量S	質B					A
				H27	0	1	2	2	3	8
				量D	質C					C
				H28	0	2	2	2	2	8
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	9	多世代交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> 多世代交流のニーズを調べ、地盤ぐるみでの子育て支援の確立、施策3-5の支援者、施策3-6支援員の獲得等にもつなげてください。 多世代交流のニーズ把握により、施策3-8の必要性を示すとともに、本施策では実現できないニーズの充足の方策を検討してください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略では、拠点の活用と多様なニーズを充足する交流の場（分散的、多様な場）に分けたり、KPIも、分散している状況や利用者数等動きのわかるKPIとして設定することを検討してください。主体的に活動する住民（利用者）グループの発生もKPIに設定してもらいたいと考えます。 「基本目標・基本的方向を踏まえての状況」において、「実施できていないこと」とされている「子育てを地域ぐるみで行われる」ように、仕掛けと仕組みづくりを次期総合戦略においては明確な目標にして取り組んでください。 	H29	0	3	3	3	3	12
				量D	質B					C
				H30	10	2	2	2	2	18
				量S	質C					B
				R1	10	3	3	3	3	22
				量S	質B					A

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI		②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
				量的実証	質的検証					
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	9	福祉医療制度の実施	<ul style="list-style-type: none"> 「子育てに係る負担軽減」は経済支援だけではないため、今後も切れ目のない支援と負担軽減を検討してください。 町財政との兼合いもありますが、県内市町の動向に合わせて、移住・定住を住民が判断するときにマイナス要因にならないようにする必要があります。 県内市町とりわけ周辺自治体との競争状態にあります。日野町の子育て支援策が総合的に良いと判断されるような環境条件づくりを、様々な施策間のバランスも考えながら進めてください。 	H27	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	20
				H28	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	20
				H29	10	4	4	2	2	22
				量S	質B				A	22
				H30	10	3	3	2	2	20
				R1	10	3	3	2	2	20
				量S	質B				A	20
10	障がい児の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「基本目標・基本的方向を踏まえての状況」の内容は、福祉政策の行政的内容になるかと思います。基本目標の「地域のつながり」「ニーズにあった切れ目のない支援」という観点から取り組み状況、今後の取り組みを検証したのであれば、別の視点が出てくると考えます。地域とのつながりをもつ視点、つながりを活かす視点をもってください。 適時面接について、速やかに面談できるように、オンライン環境を整備し、オンラインシステム（会議システム）を活用していくことも必要です。 保護者の交流は、保護者同士のつながりを強める取り組みとして評価します。障害児支援は、保護者をエンパワーメントすることも支援につながります。 障害児支援にも地域が関わることを明らかにして、地域で育てる気風をもてるように検討してください。 	H27	0	2	3	3	3	11	
			量D	質B				C	11	
			H28	10	3	3	2	2	20	
			量S	質B				A	20	
			H29	1	2	2	2	2	9	
			量D	質C				C	9	
			H30	10	3	3	2	2	20	
			R1	10	3	3	2	2	20	
11	子どもの読書活動推進	<ul style="list-style-type: none"> 大人（一般）の貸出が増える取り組みを進めてください。総合戦略の中に本施策の「子どもの読書活動推進」が入っている意味を再確認してください。そのことにより、子育て環境の良さをアピールすることになると見えます。また、託児サービスの回数増は必要です。子育て世代に利用しやすい図書館づくりにより一層努めてください。 成人の図書館利用を増やすためにも、家族で利用する習慣を広げたり、地区ごと、気の合う仲間同士での利用等多様な成人の利用拡大方法を検討してください。 基本目標「地域のつながりを深める」中で、「切れ目のない支援」を図書館が実施できているのかを検証し、ボランティアの枠から外に概念と活動をしてください。 小中高校生の図書館利用の増は、図書館を成人になっても使う習慣を身に着けることになり、長期的には成人利用の増にもつながります。 小中高校生が、利用時に「図書館は生徒・学生の使うもの」と考えるのではなく、一生使い続ける・使い続けられるものであると認識し、成人してからも使い続けられるように図書館イメージを広げてください。 図書館が、住民一人ひとりの生き方の幅を広げる重要な施設で、新しい時代の変化に対応したメディアを使用する場として、電子書籍をはじめ、電子情報の利用拡点としても充実を図ってください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略のKPIには、学校司書の活動成果や、多様な利用実態がわかるものなど、現在の貸出数に加えて新しいKPIも設定してください。 	H27	10	2	3	2	2	19	
			量S	質B				A	19	
			H28	9	3	2	3	3	20	
			量S	質B				A	20	
			H29	9	3	3	4	4	23	
			量S	質A				A	23	
			H30	8	3	3	3	3	20	
			R1	量A	質B				A	20
12	働きやすい就労環境の推進	<ul style="list-style-type: none"> 交流の場づくり・就労支援になる取組である施策3-5、3-8の施策とも連携し、女性の就労を増やしてください。 女性の就労の場によって、施策3-4、3-13も必要性が高まります。「切れ目のない支援」になるように留意してください。 基本目標③の中に本施策が位置付けられている意味を考え、子育て支援の中に働き方を変えなければならないことが入っているのはなぜなのかを考えると啓発内容・方法も変わると考えます。働き方を変えて子育て支援を行うことで留意してください。ただ働き方や職場環境の改善の啓発をするだけでは効果はないと言えます。 KPIで有効率が上がっていますが、残業時間や通勤時間等も調べ、一日の生活時間がどのようになっているのかを調べてみる必要があります。子育て環境改善のための働きやすさの実現であることを留意してください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略は、KPIに他の指標も設定し、子育て環境の改善につながっていることを示せるようにしてください。 次期総合戦略は、基本目標③を実現するにあたって、「子育て世帯の必要とする支援」「子育て世帯が子どもを育てやすい環境であると実感するポイント」を明らかにして、住民目線の効果測定にしてください。全体的に供給側の体制づくりに力点があり、結果的には住民サービスの向上につながりますが、内部検証が内向きになる傾向があります。（例：施策3-6の支援員「人數」より「効果」） 	H27	10	2	3	2	2	19	
			量S	質B				A	19	
			H28	9	2	2	1	1	15	
			量S	質C				B	15	
			H29	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B				A	19	
			H30	8	3	3	2	3	19	
			R1	量A	質B				A	19
			量S	質B				A	19	

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②指標 取り組み状況	③指標 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証				
結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	13	学童保育所の整備	<ul style="list-style-type: none"> 「保育ニーズの多様化」について考えるとともに、高校生のアルバイトを採用して何が変化はないか考えてください。また、地域ボランティアについて検討してください。 指導員の確保に向けて、「誰」と協力していくのか注意が必要です。 学童保育のニーズの増の背景には住民の暮らしの変化があり、学童保育を実施することが、ニーズを充足し住民の暮らしを支えることになり、人口減少社会での人口減に歯止めをかけると考えてこの施設は基本目標③に入っています。「実施が困難なこと」に書いている内容は解決が必要です。 高校生アルバイトだけが地域とのつながりではないので、地域とのつながりを強める方策を検討してください。 地元学童出身高校生のアルバイト採用は、学童保育児童らが将来アルバイトをする等まちの担い手としての意識をもつてもらえるならば大成功であると考えます。このことから、採用自体高く評価します。関係各位はアルバイト高校生を大切に育てる気持ちをもってあたってください。町として、アルバイトの合同研修会を実施する等工夫が必要です。 施策3-6との連携も考え、ボランティア、アルバイトから支援員につなげる可能性も探ってください。 	H27	10	2	1	2	2	17
			量S		質C				B	
			<ul style="list-style-type: none"> 10 3 3 2 2 	H28	質B				A	
				H29	10	2	2	2	2	18
			<ul style="list-style-type: none"> 量S 質C 	H30	質B				B	
				R1	10	4	3	3	2	22
			<ul style="list-style-type: none"> 量S 質B 	R2	10	2	2	3	2	19
				R3	量S	質B				A
14	児童・生徒の自主的学習支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「自主的学習の機会」を与える施策だけでなく、「自ら見つけ取り組む」施策に進化されることも考えられます。また、「地域のつながり」を深める工夫が必要です。町内、周辺自治体出身の大学生アルバイトの活用など検討してください。 本施策は、子育て環境を良くしようという基本目標③に入っています。希望者が多くて受け入れ人数に制限をしている状態は解消する必要があります。仕事の目標を解消することに置くと、講師確保の方法から変えなければならないと考えます。講師の確保と内容充実を図ることが、基本的方向3つ目の「負担軽減」になると見えられます。将来、「チャレンジ教室」「ステップアップ教室」の受講者が、アルバイト大学生として来てもらえるような夢構想をもつてあたると何か変化がある可能性があります。 学力向上にとどまらず、施策3-11とも連携して、図書館を利用したり町について学ぶ三館訪問等学校とは違った学びも工夫してください。 会場が図書館であり、参加の難しい児童の存在も指摘されていますが、オンラインでの参加（参加保障）も検討してください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期総合戦略のKPIは、参加を希望する児童、生徒数のうち参加して充足できた割合等、子どもたちのニーズ充足度も指標にしてください。供給側の体制づくりの指標は別の管理指標として扱った方がいいと考えます。 	H27	10	3	3	2	2	20	
			<ul style="list-style-type: none"> 量S 質B 	H28	5	3	3	2	2	15
				H29	量B	質B				B
			<ul style="list-style-type: none"> 7 3 3 2 2 	H30	質B				B	
				R1	10	3	3	3	2	21
			<ul style="list-style-type: none"> 量S 質B 	R2	質B				A	
				R3	10	2	2	2	3	19
			<ul style="list-style-type: none"> 量S 質B 	R4	質B				A	
				R5	10	3	3	2	2	20
			<ul style="list-style-type: none"> 量S 質B 	R6	3	3	2	2	2	12
				R7	量C	質B				C
15	奨学金制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金は貸し入数が多いければいいというものではなく、必要とする人に届く制度であることが必要です。 日野町から出た人に対し、奨学金を貸し与するが日野町に帰ってきたら返済を無しにする等の方法もありますが、借金で住むところが変わるような制度ではなく、寄附金（基金）で奨学金制度を実施する等の手法の見直しを検討してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 量C 質B 	H28	4	3	3	2	3	15
				H29	量C	質B				B
			<ul style="list-style-type: none"> 3 3 2 2 2 	H30	質B				C	
				R1	3	3	2	2	2	12
			<ul style="list-style-type: none"> 量C 質B 	R2	1	3	3	3	3	13
				R3	量D	質B				B

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数																																																							
				①KPI	②無 取り組み状況	③有 取り組み状況	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み																																																								
				量的検証	質的検証																																																											
くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	1 進取のまちの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画策定後のフォローの姿が見えず、自治会ごとの取り組みの進展が効果的なもののが見えません。また、まちづくり計画の高度化を図る必要があります。（例：「伝統行事等の伝承」「世代間交流」「自己実現」「地域での学び」といった項目を立て、気に留めながらまちづくりを進める等） ・「地域の学び」のモデル事業を行うなど、「自ら発見し、学び、取り組んでいくまち」をつくる新しい取り組みを住民の自治会活動の中に取り組んでもらうことが必要です。また、それまでの自治活動の見直しも含めて進められるような工夫が必要です。 ・基本目標②の移住・定住促進とも連携させて考えてみてください。受け入れる地域側の準備も必要です。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略のKPIは、まちづくり計画の策定数に加えて、集落点検の実施数、実施後に自治会での何らかの話し合いの実施数を加えることを検討してください。毎年実施して集落の課題を出し合うことが重要です。 	<p>H27</p> <table border="1"> <tr> <td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>22</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>18</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質C</td><td>B</td></tr> <tr> <td>9</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>19</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>18</td></tr> <tr> <td>量A</td><td colspan="4">質B</td><td>B</td></tr> </table> <p>R1</p> <table border="1"> <tr> <td>7</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>19</td></tr> <tr> <td>量A</td><td colspan="4" rowspan="9">質B</td><td>A</td></tr> </table>	10	3	3	3	3	22	量S	質B				A	10	2	2	2	2	18	量S	質C				B	9	3	3	2	2	19	量S	質B				A	8	3	3	2	2	18	量A	質B				B	7	3	3	3	3	19	量A	質B				A	22
10	3	3	3	3	22																																																											
量S	質B				A																																																											
10	2	2	2	2	18																																																											
量S	質C				B																																																											
9	3	3	2	2	19																																																											
量S	質B				A																																																											
8	3	3	2	2	18																																																											
量A	質B				B																																																											
7	3	3	3	3	19																																																											
量A	質B				A																																																											
質B																																																																
質C																																																																
質C																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
3 ボランティア団体の組織化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体の育成、組織化について、他自治体の取り組み事例にも学びながら取り組んでください。基本目標③の施策3-5、3-6、3-7、3-8、3-13、3-14等個人参加ボランティア、ボランティア団体の育成面等に注目して、団体づくり、組織化を進めてください。町の中に〇〇協力員、〇〇支援員等地域福祉の担い手が必要とされています。ボランティアの経験者を増やすことでこうした地域を支える人材育成につながっていることを留意して取り組みを強化してください ・ボランティアを増やすには、ボランティアの機会を多くつくり、それぞれの場面でいい成功体験を参加者にしてもらうことが必要です。啓発をして「探していくてください」から、「こんな所でボランティアがあります。こんな内容の社会貢献です」という分かりやすいボランティア機会の場示を行なう参加を促してください。 ・学童、保育、保育園、障害児支援など子育て支援に関わるボランティア等常に必要とされているボランティアも多数あります。町にあふれるボランティア需要を的確につかみ、参加者を増やす方法を考えてください。 ・市民団体、ボランティア団体育成のための補助金制度も充実を図ってください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会のような地縁団体が強固で活発であったとしても、市民活動（志縁団体）、ボランティア活動の活性化は必要です。次期総合戦略では自治会活動と市民活動の活性化を基本目標の「方向」に明記して取り組んでください。 ・KPIの見直しが必要です。5年間団体数が減らなくてよかったですとみるか、増えなかつたとみるか、市民統率される町の向こを測定するのが適切か検討してください。 	<p>H27</p> <table border="1"> <tr> <td>10</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>14</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質D</td><td>B</td></tr> <tr> <td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>16</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質C</td><td>B</td></tr> <tr> <td>9</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>18</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>B</td></tr> <tr> <td>10</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>19</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> </table> <p>R1</p> <table border="1"> <tr> <td>10</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>19</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4" rowspan="9">質B</td><td>A</td></tr> </table>	10	1	1	1	1	14	量S	質D				B	10	2	2	1	1	16	量S	質C				B	9	3	2	2	2	18	量S	質B				B	10	3	2	2	2	19	量S	質B				A	10	3	2	2	2	19	量S	質B				A	14	
10	1	1	1	1	14																																																											
量S	質D				B																																																											
10	2	2	1	1	16																																																											
量S	質C				B																																																											
9	3	2	2	2	18																																																											
量S	質B				B																																																											
10	3	2	2	2	19																																																											
量S	質B				A																																																											
10	3	2	2	2	19																																																											
量S	質B				A																																																											
質D																																																																
質C																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
4 コミュニティビジネスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・施策4-3における市民団体からコミュニティビジネスが生まれることも想定して検討してください。 ・青空市場やマルシェ等住民の力を引き出す定期的イベントを企画し、それに参加（出店）する人の数等の商業の裾野を広げるとともに、広かりを測定してください。 ・A評価ですが、①ビジネスマインド（あきらめの精神）、②ビジネスを通してお金だけではない価値を生むことの理解が十分ではないことの両面から苦労している施設であると考えます。創業数を増やすことは容易ではないので、次期総合戦略の項目として挙げないことも考えられます。しかしながら、これからまちづくりにおいて、コミュニティビジネス支援は重要度を増すと考えます。そう考えると、ビジネスマインドの育成、価値創造の理解促進を進めなければなりません。 ・定期的マルシェ等住民の力を引き出したり、地域のつながり、知恵を交流する場をつくることは、基本目標、基本的方向からも意義深いものになります。 ・実行委員会、または住民団体による企画にすると、多面的效果をねらうことも検討してください。施策4-3の団体育成ともからめることができると考えます。 ・コミュニティビジネス支援のスタンスを再検討する必要があります。創業の支援の方法にしき、そもそもその方法論が問題がある可能性があります。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略のKPIは、創業数だけでなく他の指標も導入してください。 	<p>H27</p> <table border="1"> <tr> <td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>9</td></tr> <tr> <td>量D</td><td colspan="4">質B</td><td>C</td></tr> <tr> <td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td></tr> <tr> <td>量D</td><td colspan="4">質C</td><td>C</td></tr> <tr> <td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>21</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>21</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> </table> <p>R1</p> <table border="1"> <tr> <td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>22</td></tr> <tr> <td>量S</td><td colspan="4" rowspan="9">質B</td><td>A</td></tr> </table>	0	2	3	2	2	9	量D	質B				C	0	2	2	2	2	8	量D	質C				C	10	3	3	2	3	21	量S	質B				A	10	3	3	3	2	21	量S	質B				A	10	3	3	3	3	22	量S	質B				A	9	
0	2	3	2	2	9																																																											
量D	質B				C																																																											
0	2	2	2	2	8																																																											
量D	質C				C																																																											
10	3	3	2	3	21																																																											
量S	質B				A																																																											
10	3	3	3	2	21																																																											
量S	質B				A																																																											
10	3	3	3	3	22																																																											
量S	質B				A																																																											
質B																																																																
質C																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																
質B																																																																

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②既存 取り組み状況	③既存 今後の取り組み	④基本目標達成 取り組み状況	⑤基本目標達成 今後の取り組み		
くらしや すい地 域と つなが り、安 心して 住み続 けれ れるま ちをつ くる	5 異分野・多世代交流の創出	・本施策は交流の創出なので、異分野・多世代交流の場をカウントするのも一つの指標となります。 ・サポーター公募の方法も検討してください。異分野・多世代交流の場をつくるために公募サポーターを募集する建前にしてください。 ・中高生ボランティアの活用は、施策4-3とも関わるので連携が必要です。「ボランティアが実行委員の任い手である」という考え方方は高く評価します。こちらのモデルを施策4-3に伝えてください。経験を通して学びを深める取り組みを進めてください。 ・「おしゃべり会」の取り組みを広げ、基本目標・基本的方向の「自ら発見し、学び、取り組む」まちづくりを進め、施策4-1のまちづくり計画の質的向上や施策4-3のボランティアの活性化にもつながるように取り組みを工夫してください。話し合いからまちを変え、まちをつくる取り組みを進めてください。 ・本施策の実現の目的を考えてください。人ととの交流で知人になり、人と人のつながりができることだけのか考えてください。交流は学びをつくり、世界観を形成したり、まちの将来について考えたりする姿勢の形成であったりするものだと考えます。交流が学びになり、まちの力量を高めるように工夫してください。	H27 H28 H29 H30 R1	○	2	2	2	3	9	
				量D	質B				C	
				10	3	2	3	2	20	
				量S	質B				A	
				3	3	3	3	3	15	
				量O	質B				B	
				2	3	3	3	3	14	
				量D	質B				B	
				2	3	3	3	3	14	
				量D	質B				B	
くらしや すい地 域と つなが り、安 心して 住み続 けれ れるま ちをつ くる	6 学びの機会の充実	・3つのKPIはともに学びの機会の一端を表すものとして評価できます。また、KPIの数値も、H31目標に對しては100%達成とはなりませんでしたが、前年度より上昇しておりますので評価します。今後の開催形態や、ターゲットによる開催時間の工夫をしてください。 ・字別懇談会参加者数の多さは評価できますが、「男女比の分析」に加えて、年齢階層別も分析してください。女性字別懇談会、若者懇談会など字別懇談会の冊子の工夫を行ってください。また、クロスロードゲームのようにみんなで参る場をつくるなど、字別懇談会を楽しく学べる場と位置づけ、施策4-1、4-2、4-3、4-5等他の施策との事業効果が上がる工夫をしてください。アクティブラーニングになる工夫が必要です。学びの機会の提供は戦略的に行い、図書館とも連携して「学びの機会→学びの意欲の高まり→図書館がサポートする」という这样一个サイクルをつくってください。 ・人権委員を一貫つなぐ代行するは多く人に経験してもらう上で良いと考えます。人権委員任期間、サポーターにまわされる制度(上級的な技能研修の場を設ける等)を単独事業でも行い、ノウハウの蓄積、リーダー、サブリーダーを養成することも検討してください。施策4-1、4-2、4-3、4-5にも好影響を与えることができると言えます。 ・公民館、図書館はまちづくりの拠点施設です。地域課題の解決にあたる学習サークルのようなものが生まれ、自ら活動する団体を育てるために各種の施策と連携した生涯学習の機会をつくるなど工夫をしてください。	H27 H28 H29 H30 R1	9.6	3	3	3	2	20.6	
				量S	質B				A	
				9	3	3	3	2	20	
				量S	質B				A	
				8	3	3	3	2	19	
				量A	質B				A	
				8	3	3	3	3	20	
				量A	質B				A	
				8	3	3	3	3	20	
				量A	質B				A	
くらしや すい地 域と つなが り、安 心して 住み続 けれ れるま ちをつ くる	7 農林業を活かした中間就労の創出	・中間就労の場をつくるだけでなく、品質の高い米づくりを進め、グローバルGAP取得をするなど取り組みを高く評価します。 ・グローバルGAPの取得の成果から販路を都市部に拡大するのも一つの策だと考えますが、基本目標①の地域内経済循環を高めたり、町内産品をアピールする場として「フルーメの丘」での出食や町内飲食店の出食も検討してください。町内で加工して移出された方が付加価値、町民所得は増えます。 ・農福連携からまちの遊休農地の有効活用など、まちを荒廃から守り経済活動を活性にする試みであり大いに発展を期待します。 ・中間就労から農業者や自立的就労に結び付けられるようにステップアップを図ってください。そのためには、最高の指導者に力を貸してもらうなど、最高の技術を学ぶように支援をしてください。	H27 H28 H29 H30 R1	○	2	2	2	2	8	
				量D	質C				C	
				○	3	3	1	1	8	
				量D	質C				C	
				10	2	2	2	2	18	
				量S	質C				B	
				10	2	2	1	1	16	
				量S	質C				B	
				10	3	3	3	3	22	
				量S	質B				A	
くらしや すい地 域と つなが り、安 心して 住み続 けれ れるま ちをつ くる	8 障がい者の就労促進	・高校訪問を行い早めのフォローを準備している点は高く評価します。 ・滋賀県中小企業家同友会の障害者雇用を増やす取り組みなどに学び、地元企業の啓発を行ってください。障害への理解の次のステップに進めるように取り組んでください。 ・保証人問題ですが、町役場の支援策として保証を行うことは可能かどうかを検討して下さい。 ・地元の中での就労場所や、仕事、受け入れ企業などを拡充し、多様な障害者のマッチングの可能性を高めてください。(障害は多様であるので、多様な受け入れが必要です。) ・高校生の就労体験は、一般施策的に行い、高校生が自らの適性を知ることができます。障害者やフォローの必要な学生だけにとどまらない施策として取り組み負の要素にならないように配慮してください。	H27 H28 H29 H30 R1	10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A	
				10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A	
				10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A	
				10	3	3	2	2	20	
				量S	質B				A	
				10	3	3	3	3	22	
				量S	質B				A	

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数																																																															
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み																																																																
					量的検証	質的検証																																																																			
くらしやすい地域とつながり、安心して住み継続られるまちをつくる	9 障がい福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・良し悪しは別として、箇所も施設から地域移行が進む流れ、県も施設を作らない方針の中では、地域の受け入れの重要度は増していきます。 ・障害者グループホームのニーズの多様さ（高齢化、障害の程度など）の実態を把握することが必要です。そのニーズを充足する方法が従来のグループホームの枠組みが国、県の方針との兼ね合いで変更を余儀なくされる時期にあると思われます。地域移行の可能性を地域とともに考へ解決策と一緒に見つけてください。また、必要な支援を国、県に要望することも検討してください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略では、グループホーム定員ではなく、グループホーム定員に加え新たな受け入れ形態により、必要とする人々が入居可能であるのかどうかを指標にしてください。 ・現在のKPIでは定員が増えないので、利用者一定でも達成率は低下します。その上、必要としているのにホームに入れない人がいるのかいないのかも分かりません。ニーズとの対比で待機者数を示した方が意味のある数値ではないかと考えます。 ・地域で支えあって暮らす意識の啓発に努め、障害者が地域で暮らせる取り組みを進めてください。次期総合戦略では施策名称も工夫してください。 	<table border="1"> <tr> <td>H27</td><td>10</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>19</td></tr> <tr> <td></td><td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>H28</td><td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>20</td></tr> <tr> <td></td><td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>H29</td><td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>20</td></tr> <tr> <td></td><td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>H30</td><td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>22</td></tr> <tr> <td></td><td>量S</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> <tr> <td>R1</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>20</td></tr> <tr> <td></td><td>量A</td><td colspan="4">質B</td><td>A</td></tr> </table>	H27	10	3	2	2	2	19		量S	質B				A	H28	10	3	3	2	2	20		量S	質B				A	H29	10	3	3	2	2	20		量S	質B				A	H30	10	3	3	3	3	22		量S	質B				A	R1	8	3	3	3	3	20		量A	質B				A
H27	10	3	2	2	2	19																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H28	10	3	3	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H29	10	3	3	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H30	10	3	3	3	3	22																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
R1	8	3	3	3	3	20																																																																			
	量A	質B				A																																																																			
H27	10	3	3	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H28	9	3	2	3	20																																																																				
	量S	質B				A																																																																			
H29	8	2	2	2	2	16																																																																			
	量A	質C				B																																																																			
H30	10	3	2	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
R1	10	3	3	3	3	22																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H27	10	3	3	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H28	10	3	3	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H29	10	3	2	2	2	19																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H30	10	3	3	2	2	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
R1	10	3	3	3	3	22																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H27	10	3	3	3	2	21																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H28	10	2	2	2	2	18																																																																			
	量S	質C				B																																																																			
H29	10	2	3	2	2	19																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
H30	10	2	3	2	3	20																																																																			
	量S	質B				A																																																																			
R1	10	2	3	3	3	21																																																																			
	量S	質B				A																																																																			

基本目標	施策No	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				OKP	◎指標 取り組み状況	◎指標 今後の取り組み	◎基本目標等 取り組み状況	◎基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証					
くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	13	自主防災組織の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の設立、支援、自主防災組織間の学びの交流など施策に書かれている「組織づくり」「組織強化」の取り組みは不十分であると感じられます。 ・防災士の資格取得者を増やすためには、防災に関心を持つ住民の裾野を広げ、ボトムアップでリーダーを育て、有資格者に挑戦してもらうといったステップを踏む構想が必要となります。 ・地域の中でどんな機能が必要なのか見直しが必要です。 ・防災士については、同じ人が定着しないよう、任期を決めて卒業してもらい、任期後は地域を盛り上げていただく仕組みづくりを検討してください。同時に、新しい人に登録してもらうという仕組みづくりを検討してください。 ・防災合宿において、幼少期から防災に関心を持ってもらうよう取り組むことは非常に大切です。 	H27	10	2	3	2	2	19
				量S	質B				A	
				H28	10	2	2	2	2	18
				量S	質C				B	
				H29	8	2	2	2	2	16
				量A	質C				B	
				H30	8	3	3	2	2	18
				R1	量A	質B				B
				R1	8	3	3	3	3	20
				量A	質B				A	
14	公共交通の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5万5千人の足である町営バスの利用促進は、事業者と住民（利用者）の協力が必要です。利用拡大のための企業努力、みんなで使うことで支える住民意識の醸成が必要です。また、経営状況や財政負担なども明らかにして、住民が利用することで、経営改善、財政負担の軽減にもつながることを知って行動してもらえるような工夫が必要です。 ・「おたすけカゴヤ」等の取り組みは、今後ますます重要になるとを考えられます。地域の暮らしの基盤をどう守っていくのか、町財政の限りもある中で、住民主体で解決に取り組むこと、そして町が責任を持つべきことを住民との対話の中によりよい解を出せるように努めてください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略では、「公共交通の利用促進」にとどまらず、交通弱者をどう支えるのかといった視点を入れた施策を考えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5万5千人の足である町営バスの利用促進は、事業者と住民（利用者）の協力が必要です。利用拡大のための企業努力、みんなで使うことで支える住民意識の醸成が必要です。また、経営状況や財政負担なども明らかにして、住民が利用することで、経営改善、財政負担の軽減にもつながることを知って行動してもらえるような工夫が必要です。 ・「おたすけカゴヤ」等の取り組みは、今後ますます重要になるとを考えられます。地域の暮らしの基盤をどう守っていくのか、町財政の限りもある中で、住民主体で解決に取り組むこと、そして町が責任を持つべきことを住民との対話の中によりよい解を出せるように努めてください。 <p>○提案：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期総合戦略では、「公共交通の利用促進」にとどまらず、交通弱者をどう支えるのかといった視点を入れた施策を考えてください。 	H27	9	2	3	2	2	18
				量S	質B				B	
				H28	9	2	2	2	2	17
				量S	質C				B	
				H29	9	3	3	3	3	21
				量S	質B				A	
				H30	9	3	3	3	3	21
				R1	量S	質B				A
				R1	9	3	3	3	3	21
				量S	質B				A	